

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：稼働率・生産能力指数(8月)
～ 引き続き高水準にある稼働率 ～

発表日：10月14日(金)

(No. J - 139)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 新家 義貴(03-5221-4528)

(単位:%)

		稼働率指数						生産能力指数					
		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
04	1-3月	0.1	6.0	0.3	13.3	▲1.5	3.7	▲0.5	▲1.7	0.8	2.5	▲0.1	▲1.2
	4-6月	1.9	5.7	0.6	15.3	4.3	6.5	0.1	▲1.0	4.2	5.5	▲1.9	▲2.4
	7-9月	0.3	5.6	▲4.6	2.7	▲0.7	5.2	▲0.1	▲0.7	1.5	7.3	▲0.7	▲2.7
	10-12月	▲0.2	2.2	▲5.0	▲8.5	0.3	2.9	0.0	▲0.5	2.5	9.3	0.1	▲2.6
05	1-3月	0.9	1.6	1.7	▲8.4	3.4	5.9	▲0.3	▲0.3	0.3	8.7	1.0	▲1.5
	4-6月	1.6	2.6	0.5	▲7.3	1.1	4.0	0.0	▲0.3	1.3	5.7	▲0.2	0.2
04	1月	2.5	4.8	▲0.2	12.8	1.5	▲0.9	▲0.4	▲1.8	▲0.3	1.4	▲0.1	▲1.8
	2月	▲4.0	5.5	▲3.3	11.9	▲3.3	2.0	▲0.1	▲1.7	0.0	1.4	0.0	▲0.9
	3月	0.9	7.5	2.5	15.0	2.5	9.3	0.2	▲1.5	2.8	4.8	0.0	▲0.9
	4月	2.7	6.7	▲0.1	15.2	4.5	9.8	0.2	▲1.0	1.3	4.6	0.0	▲0.8
	5月	0.0	3.1	1.3	15.8	▲2.3	▲0.4	▲0.4	▲1.2	1.4	5.5	▲3.1	▲3.4
	6月	▲0.1	7.2	▲1.9	14.9	2.4	9.9	0.1	▲0.8	0.0	6.5	0.5	▲2.9
	7月	0.4	4.7	▲3.0	5.4	▲1.5	3.6	▲0.1	▲0.8	0.8	7.3	0.0	▲2.9
	8月	0.2	8.4	1.7	7.0	▲1.5	6.1	0.1	▲0.7	0.3	7.5	0.0	▲2.9
	9月	▲0.5	4.1	▲5.7	▲3.8	3.1	6.1	0.0	▲0.7	0.2	7.2	0.2	▲2.5
	10月	0.0	▲0.2	▲0.2	▲7.4	▲0.5	▲0.9	0.0	▲0.5	2.1	9.2	0.0	▲2.5
	11月	0.8	5.6	▲2.6	▲8.3	1.5	10.0	0.0	▲0.5	0.1	9.5	0.0	▲2.5
	12月	▲1.4	1.2	0.7	▲9.9	▲5.1	▲0.3	0.0	▲0.4	0.3	9.3	▲0.1	▲2.6
05	1月	3.1	1.6	2.7	▲9.0	6.8	5.3	▲0.2	▲0.2	▲0.3	9.4	1.1	▲1.5
	2月	▲1.7	1.8	▲0.7	▲8.1	▲0.4	7.2	0.0	▲0.1	0.3	9.7	0.0	▲1.5
	3月	▲1.2	1.4	▲0.5	▲8.3	0.1	5.2	▲0.1	▲0.4	0.4	7.1	0.0	▲1.5
	4月	4.3	2.6	2.5	▲6.8	5.7	5.6	▲0.1	▲0.8	▲0.8	4.9	0.0	▲1.5
	5月	▲2.3	2.9	▲3.4	▲9.4	▲7.5	4.4	0.3	0.0	2.3	5.8	▲0.2	1.4
	6月	0.6	2.3	3.0	▲5.8	2.6	2.3	0.0	▲0.1	0.5	6.3	▲0.1	0.8
	7月	▲1.6	▲1.0	0.8	▲3.0	▲4.4	▲2.9	0.0	0.0	0.0	5.5	0.0	0.8
	8月	0.4	1.7	3.6	0.7	▲2.8	0.1	0.1	0.0	0.8	6.0	0.0	0.8

(出所)経済産業省「鉱工業指数」

○ 高水準の稼働率が設備投資をサポート

8月の稼働率指数は前月比+0.4%と2ヶ月ぶりの上昇となった。また、9月の生産予測指数が前月比+3.0%とかなり高い伸びとなっていることから考えると、9月の稼働率も2ヶ月連続での上昇が予想される。稼働率は、消費税引き上げ前の駆け込み需要で好調だった97年前半とほぼ同程度の高水準で推移しており、今後も設備投資のサポート材料になるだろう。

内訳では、電子部品・デバイス工業(同+3.6%)、一般機械工業(同+2.2%)などの上昇が目立った。昨年後半以降のIT部門の在庫調整の影響で電子部品・デバイスの稼働率はなかなか上昇してこなかったが、足元で在庫調整がほぼ終了したことを受けて、ようやく稼働率も上昇基調に入ったとみられる。また、一般機械に関しては、設備投資の増加を受けて内外で需要が大幅に拡大していることが稼働率上昇に寄与しており、ほぼフル稼働の状態にある。

一方、鉄鋼業は同▲3.4%と3ヶ月連続で低下するなど、このところ低下が目立っている。鉄鋼では減産が続いているが、未だ目立った在庫の減少はみられておらず、調整は道半ばだ。このように、素材系の非IT業種の動向は今後の懸念材料である。IT部門の在庫調整終了により、今後の鉱工業生産は全体として伸びを高めていくと考えられるが、非IT部門の戻りの鈍さはしばらく生産の足を引っ張りそうだ。

もつとも、中国向け輸出に持ち直しの動きがみられるなど、非IT部門を取り巻く環境も足元で変わりつつある。今後、中国を中心とする東アジアでの需給が改善してくれば、鉄鋼等の素材業種の業況は改善に向かうだろう。少なくとも、非IT生産が落ち込むことによって生産全体が再び調整局面入りするという状況は想定する必要はなく、非ITについて過度に悲観すべきではない。

○ 生産能力指数の下げ止まり

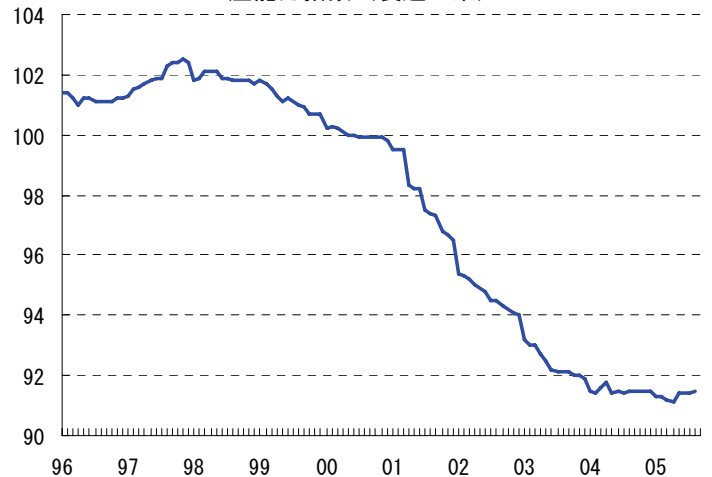
こうした高水準の稼働率が、足元で能力増強投資に繋がっている。生産能力指数は98年以降、設備投資の低迷と老朽設備の除却によって長らく低下してきたが、足元では前年比横ばいと下げ止まっている。今のところ電子部品・デバイスのプラス寄与が大きいが、その他の業種でも生産能力指数のマイナス幅は縮小している。前述の一般機械などでは稼働率水準は極めて高く、フル稼働に近い状態にあるため、仮に今後生産を拡大しようとするれば、増産投資を行って生産能力を拡大するしかない。設備投資好調の背景には、こうした稼働率の高まりと能力増強投資の持ち直しといった要因も存在する。

また、生産能力が下げ止まってきたとはいっても、まだ資本ストックが積みあがるほどの状況には至っておらず、ストック循環的にも設備投資拡大余地は大きい。こうしたことから、設備投資は今後も増加しやすい環境にあると思われる。

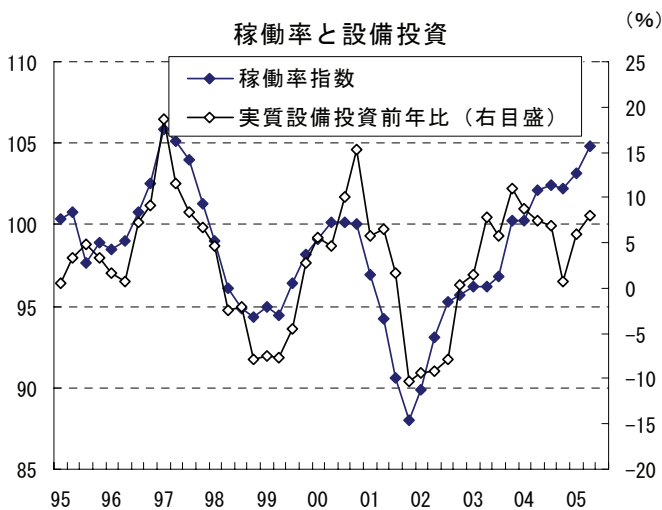
設備稼働率 (季調値、指数)



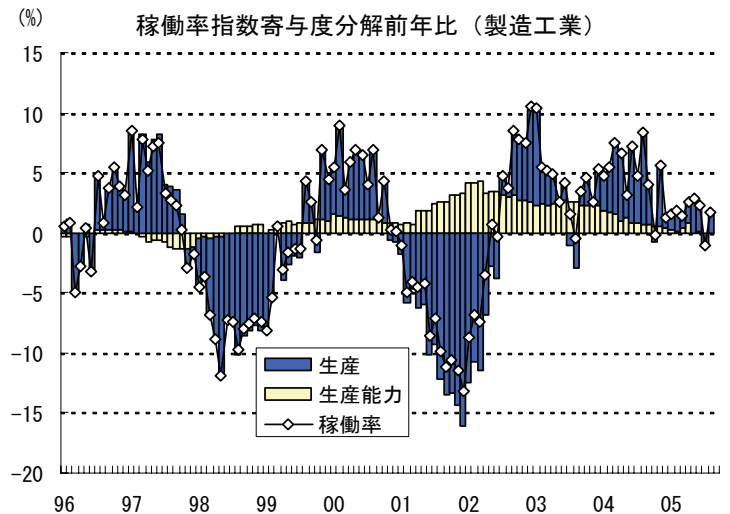
生産能力指数 (製造工業)



稼働率と設備投資



稼働率指数寄与度分解前年比 (製造工業)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。